

A person wearing blue overalls and rubber boots is holding a shovel with a wooden handle. The shovel is filled with dark, rich soil. The person is standing in a field of green plants, likely a vegetable garden or farm. The background is slightly blurred, showing more of the field and some trees under a bright sky.

# 練馬区と農業

18N1089

塚本柗

# 歴史

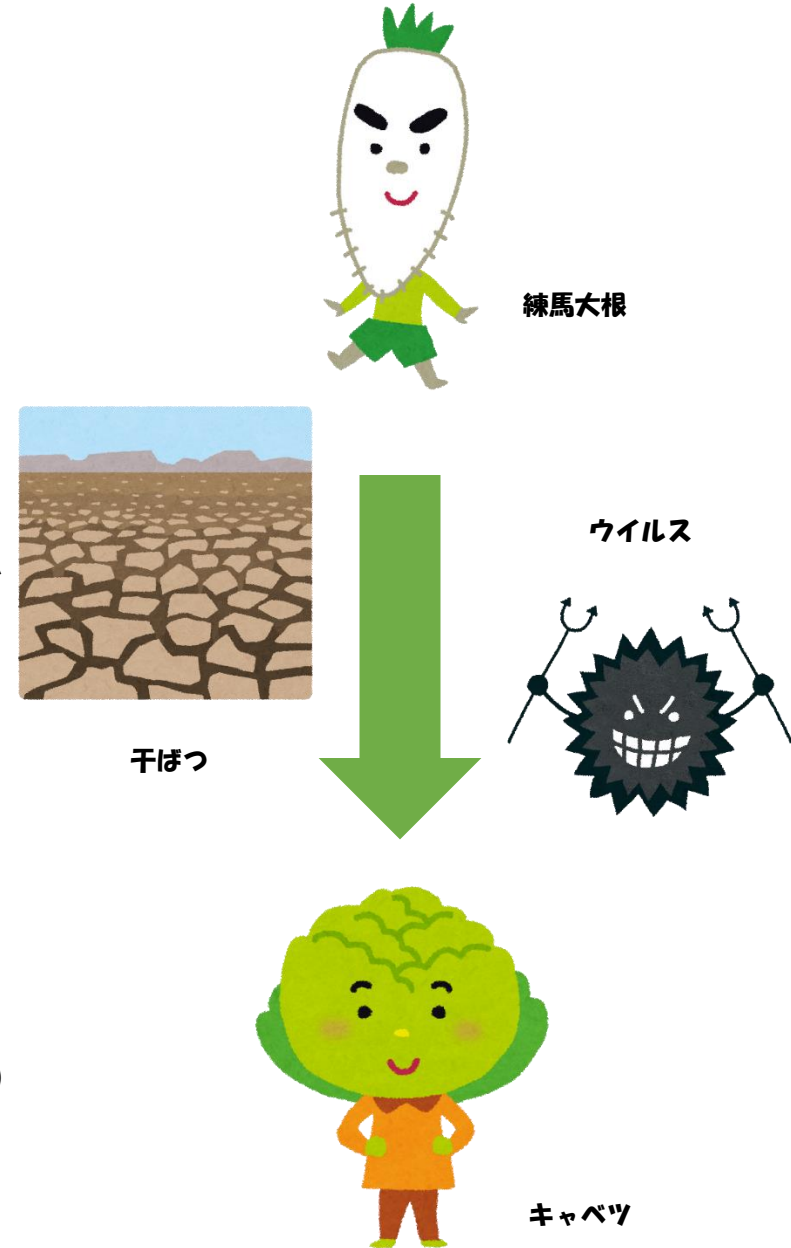
古代、大部分は草原や雑木林であった。  
平安時代に豊島氏が勢力を広げる。豊島氏は練馬城（現在のとしまえん）、板橋城、石神井城を築く。城が築かれた場所には豊かな水源があった。  
江戸時代になると、練馬村は大部分が天領。一部が旗本の知行地。当時の練馬は水に恵まれない土地柄のため畑が多く面積も限られる。そこで幕府が玉川上水分水して千川上水を1707年に農業用水として用いられるようになり、重要な水資源になる。練馬の農業が盛んになったのはこの時期である。

江戸中期に江戸の発展に伴って、大根、ゴボウ、ナス、イモなどを江戸市中に供給する一大近郊農村となる。

東京が日本の首都になるにつれて、東京市民への野菜供給地として重要性を高めていった。

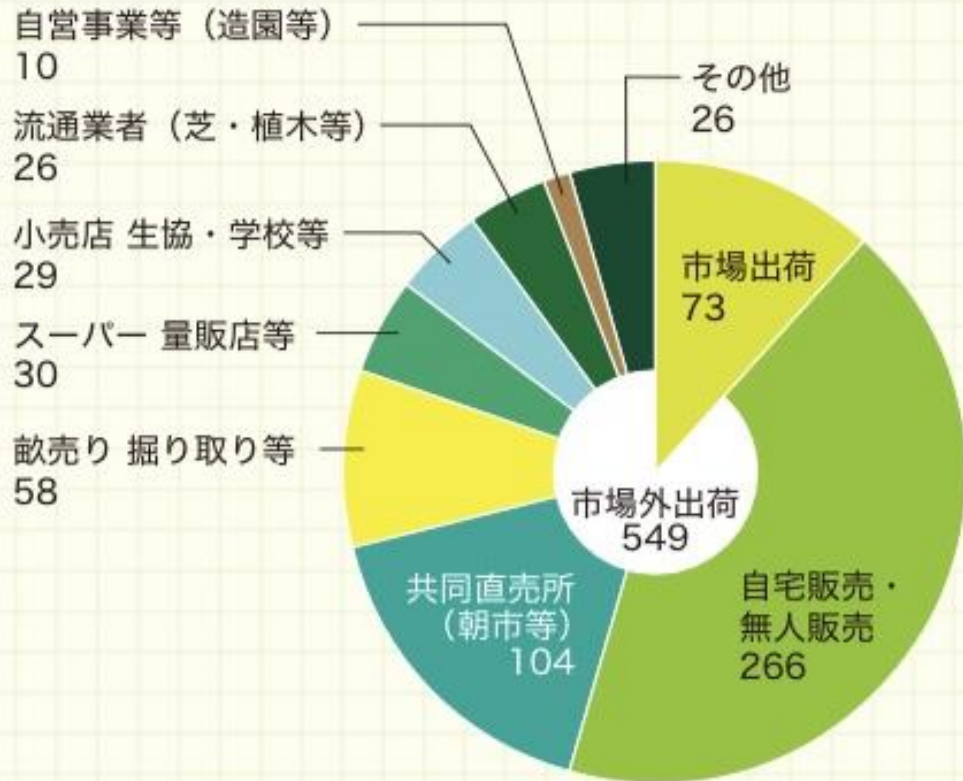
1925年あたりが練馬大根の最盛期。その後1933年の大干ばつや、何回かの「モザイク病」の大発生を受けて大きな痛手を受けた。さらに食生活の洋風化・急激な都市化による農地の減少などにより1955年から練馬大根の栽培が衰退していく。

そのうちキャベツ栽培が主となり、現在の主要生産物はキャベツになっている。東京都産のキャベツの約4割は練馬で作られている。





## 〔区内農作物販売形態〕



(単位：延べ件数)

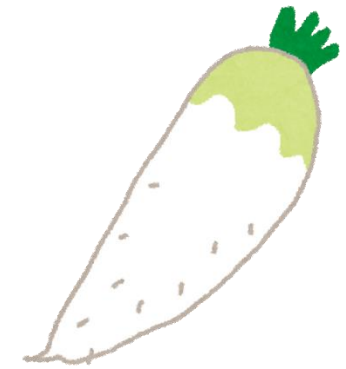
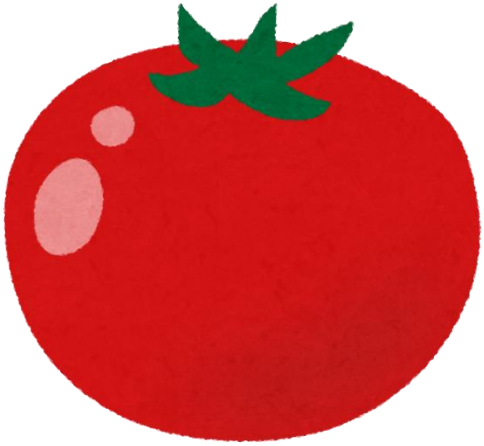
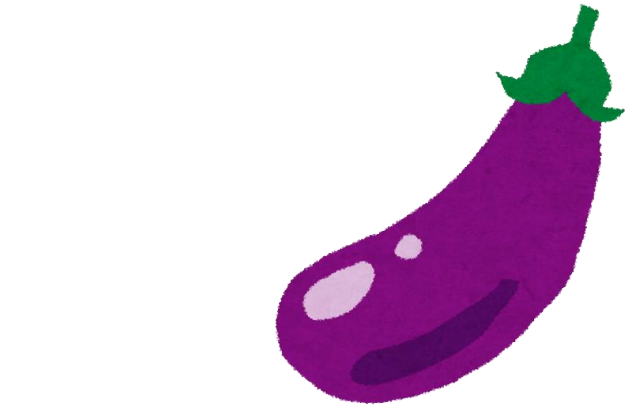
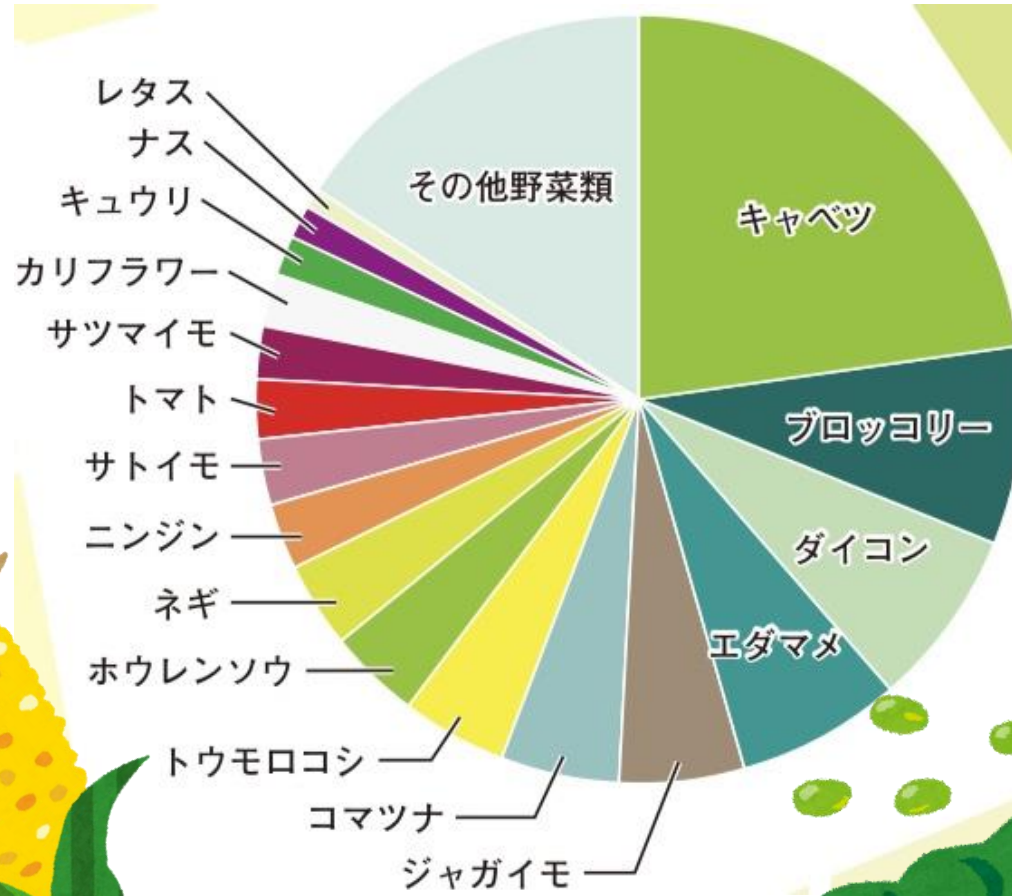
資料：練馬区「平成28年度農業経営実態調査」

・なぜ大根が有名になったのか  
関東ローム層というきめ細かい土壌に適したからである。それに加えて軍隊による練馬大根のたくあん漬け需要が高まり、さらに生産が増加する。



→左の図を見てわかるように練馬区で生産された約半数近くの農作物が「自宅販売」や「無人販売」で売られている。それに加え練馬区のレストランの中には積極的に区内の農産物を取り入れている店舗もあり、**地産地消**の代表ともいえる姿が確認できる。

# [練馬区の生産物割合]



# なぜ練馬区の農業が発展？

右の図からわかるように、東京都の農地面積の3割以上を練馬区が占めている。  
歴史からたどったように水源が整備されていたのも大きいだろうがそれだけではここまでの結果は出ていないだろう。答えは簡単だ。

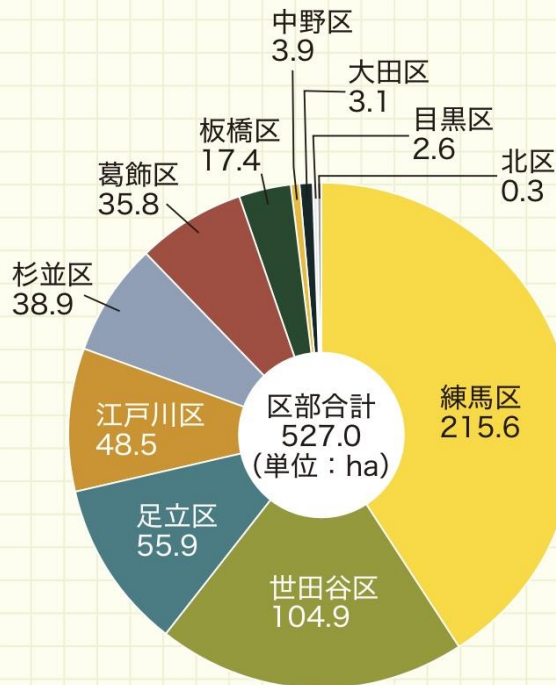
**練馬区が積極的に農業を守ってきたからである。**

成果としては

- ・都市農業振興基本法を制定させた  
→都市農地を「宅地化するもの」から「あるべきもの」に
- ・生産緑地法の一部を改正  
→生産緑地地区内に直売所や農家レストラン等の設置が可能に
- ・設備の支援
- ・練馬区認定農業者の設置

などなど、...

## [東京区部の農地面積]

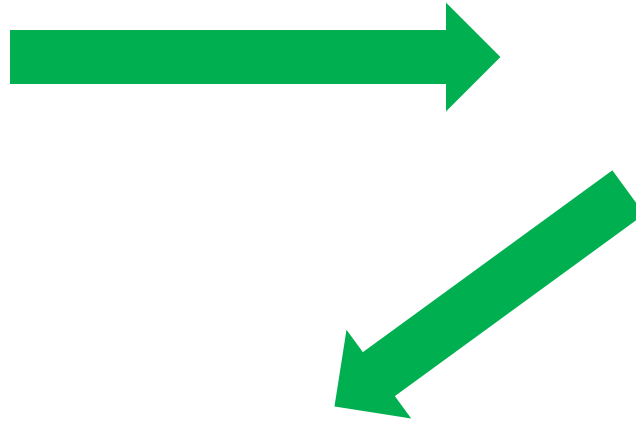


資料：東京都主税局（平成 28 年 1 月現在）





**1928~1945**  
まだあまり宅地化は進んでいない。



**1972~1982**  
徐々に宅地化が進んでいる。



**現在**  
かなり住宅地となっていて  
いるが、それでも他の区に比べると  
農地が多い。



# 直売所や畑



## 直売所



## 参考文献

<https://www.city.nerima.tokyo.jp/kusei/kunogaiyo/aramashi/history.html>

<https://www.city.nerima.tokyo.jp/kankomoyoshi/nogyo/tokei/sasshi/nerimanonougyou.html>